

対タジキスタン草の根・人間の安全保障無償資金協力

タジカバード行政郡ランガリショフ地区サブザゾル村第15学校新校舎建設計画供与式報告

平成28年3月28日、タジカバード行政郡にて「タジカバード行政郡ランガリショフ地区サブザゾル村第15学校新校舎建設計画」の供与式が行われました。タジカバード行政郡は、ドゥシャンベ市から車で北東に4時間ほど険しい山岳地帯を抜けた先にあります。

周りを美しい山々に囲まれた自然豊かな土地ですが、首都から離れた山岳地帯に位置し、なかなか支援の行き渡らない場所でもあります。そんな中、本計画では、村の人々が長年待ち望んでいた第15学校新校舎の建設が行われました。供与式中、日本で研修経験のあるタジカバード行政郡長からは、長期に亘るタジキスタン・日本の友好関係が強調されるとともに、このような首都から離れた地域において日本からの支援は貴重なものであり、新校舎建設は村の人々にとって意義深いものである旨が述べられました。行政郡長のスピーチの後には、供与式に参席した行政郡関係者、学校関係者、保護者、村民、計300名以上の人々から、日本の支援に対し、大きな感謝の拍手が送られました。

本供与式は新年を祝う「ナウルーズ」祭の翌週に開催されました。丸パンと蜂蜜を用いた伝統的な歓迎に加え、演台にはナウルーズを彩る小麦の若草「サブジ」が置かれ、また色とりどりの伝統的なアトラス布で作られた美しい衣装を身にまとう女性も多く見られました。ナウルーズの時期と重なった本供与式は、大変華やかなものとなりました。



新しく建設された校舎は、頑丈な作りで、ゆとりある設計となっています。本計画実施にあたりタジカバード行政郡より整備された新しい机・椅子等の備品と併せ、児童・生徒にとって、快適で安全な学習環境が構築されました。日本の支援を示す日章旗プレートは、校舎入口脇外壁の目に付く位置に掲げられています。供与式では、関係者からのスピーチの後、伝統的な音楽が鳴り響き、生徒や村人らが参加する楽しい踊りの場が繰り広げられました。